



2026年3月期 連結決算概況 2027年3月期 通期業績見通し

2026年5月12日

オリンパス株式会社 | 取締役 代表執行役 社長兼 CEO ポブ・ホワイト | 執行役 チーフファイナンシャルオフィサー マイケル・バレンティ

- オリンパス株式会社「2026年3月期第4四半期および通期決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。
- 本日のアジェンダは大きく4点です。まず、第4四半期および通期業績についてご説明します。次に、品質是正に向けた取り組みの進捗状況をアップデートします。その後、2027年3月期の業績見通しとキャピタルアロケーションの方針についてお話しし、最後に、今後を見据えた当社ポートフォリオの考え方についてご説明します。これらを私からご説明した後、マイケルより、業績の詳細について説明します。その後、質疑応答に移りたいと思います。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

目次

- CEO 1. エグゼクティブサマリー
- CFO 2. 2026年3月期 連結業績および事業概況
- CFO 3. 2027年3月期 通期業績見通し
- 4. Appendix

エグゼクティブサマリー

パーパスを原動力に成長を実現する企業として、 内視鏡医療の未来を切り拓く

私たちの存在意義

世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

イノベーションによる成長

次世代イノベーションをリードし、
成長市場での事業拡大を図る

当社の戦略基盤

シンプル化

オリンパスをシンプル化し、
迅速な意思決定と効率的な運営を実現

責任ある行動

品質・オーナーシップ・実行力を重視する
ハイパフォーマンス文化の醸成を促進

FY27-FY29財務ガイダンス

売上高¹

3-4-5%

FY29までに前年比5%の売上成長

営業利益率²

100 プラスbps

FY26を起点に毎年の利益率改善

EPS成長率²

10%超

FY26を起点としたCAGR

¹為替前提を固定 ²特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く、為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

- 私がCEOに就任してから、約1年が経過しました。この間、私たちは数多くの変革に取り組み、大きな進展を遂げています。昨年秋に公表した新たなビジョンでは、イノベーションによる成長、シンプル化、そして責任ある行動という3つの戦略的優先事項を柱としています。これらは単なる理想ではなく、日々の事業運営の拠り所として、私たち自身の責任を明確にするための実践的フレームワークです。

FY2026：混乱を乗り越えた年 FY2027：モメンタムの加速

掲げたコミットメントを着実に実行



FY2026を再構築の
年と位置づけ



構造的な課題に対応する
ため、必要な意思決定を断行



FDA関連の輸入警告および
自主的な出荷止めによる
影響として、約300億円の影響
(ネット金額)を吸収



修正後の業績見直し
レンジを上回る
実績を達成

FY2026は基盤構築のための一年でした
FY2027は、その成果を実行で示す一年です

- 私たちは、2026年3月期を再構築の年と位置づけてきました。その認識は、結果として正しかったと考えています。この一年、構造的な課題に正面から向き合い、短期的なコストの発生も受け入れながら、事業をより持続可能な形に転換するために意図的に意思決定を行ってきました。同時に、2026年3月期はFDA関連の輸入警告や自主的な出荷止めにより、ネットで約300億円の影響を受けるなど、いくつかの大きな逆風にも直面しました。それでも、重点を絞った取り組みにより、第3四半期に公表した修正後の見直しレンジを上回る水準で着地しています。この結果は、当社事業の基礎的な強さに加え、組織としての規律を示すものだと受け止めています。
- そして、2027年3月期においても、これまでお話ししてきた3つの戦略的優先事項は、引き続き不変です。2026年3月期は基盤構築のための一年でした。2027年3月期は、モメンタムを加速させ、成果を着実に形にしていく一年です。それは、この後ご説明する見直しにも表れています。

Q4のモメンタムが事業基盤の強さを実証

Q4 連結業績

売上高 2,953億円	前期比 +9%	為替影響調整後 +3%	調整後営業利益率 18.1%	前期比 ▲4.1pp
----------------	------------	----------------	-------------------	---------------

Q4 GIS業績 (連結売上高の約70%)

売上高 2,101億円	前期比 +16%	為替影響調整後 +10%
消化器内視鏡 北米、欧州、アジア・ オセアニアが牽引し、 各地域で二桁成長	消化器科処置具 各地域での高い実行力 と新製品効果により 二桁成長	医療サービス 継続的なサービス契約 の売上により、安定 的に成長

Q4 SIS業績 (連結売上高の約30%)

- ・ 泌尿器科：大部分の出荷が再開し、成長軌道に回帰
- ・ 呼吸器科/その他の治療領域（サージカルデバイス）：出荷止めの影響は継続しているものの、業績への影響は管理下であり、FY2027業績見通しに織り込み済み

- それでは、業績について、まず第4四半期の結果からお話します。
- 消化器内視鏡ソリューション事業（GIS）では四半期を通じて幅広い地域で想定を上回る成果を上げ、消化器内視鏡および消化器科処置具において、二桁成長を達成しました。医療サービスも前年同期比で安定した成長を示しています。
- これは、2月にお示ししていた想定を上回る結果です。当時、私たちは第4四半期におけるGISの成長見通しに自信を示していましたが、同時に、北米における販促活動・事業運営の実行力の改善を見極めたいとお伝えしていました。チームはまさに期待通りの成果を出し、今回の北米での力強い結果は、潜在需要が従前から存在しており、それが実際の売上として顕在化しつつあることを示しています。
- この点は重要です。なぜなら、オペレーションが健全であり、出荷止めが解消され、組織が十分に機能している環境では、事業の商業基盤が確実に機能することを裏づけているからです。需要は堅調で、製品競争力は高い水準にあります。顧客との関係性も引き続き良好です。2026年3月期に試されたのは、混乱の中にあっても、商業基盤やイノベーションへの注力を失うことなく事業を運営できるかどうかという点でした。そして、第4四半期の結果は、そのような取り組みが着実に進捗していることを示しています。

Q4 GIS業績：北米、欧州、アジア・オセアニアが牽引

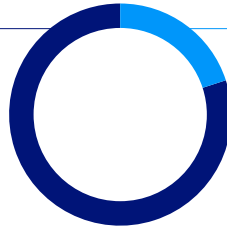
北米、欧州、アジア・オセアニア

売上構成比
約80%

前期比
+23%

為替影響調整後前期比
+16%

- 3地域すべてで、Q4に二桁成長¹⁾を達成
- オリンパスの競争力を支える複数の主要市場において、高い成長を実現



中国、日本

売上構成比
約20%

前期比
▲7%

為替影響調整後前期比
▲10%

- 中国 (Q4 GIS売上の約10%)
- 段階的な回復を想定
 - ローカライゼーション戦略を着実に進展
- 日本 (Q4 GIS売上の約10%)
- ターゲットを絞った戦略実行に向け、コマースモデルの再構築を推進
 - 規律ある販売管理と価値訴求の強化により、業績を安定化

¹⁾前期比 (円ベース)

8

OLYMPUS

- 各市場の状況を見ると、GISでは、北米、欧州、アジア・オセアニアがいずれも第4四半期において、二桁成長を達成しました。これらの市場は重要であり、売上全体の80%超を占めています。
- 一方で、売上の残り約20%を占める中国と日本は、売上成長の観点で厳しい状況が続きましたが、両市場の成長を引き出すための明確な施策を進めています。具体的には、中国におけるローカライゼーション戦略や、日本でのコマースモデルの再構築です。
- 北米、欧州、アジア・オセアニアにおける強固な競争力が、中国および日本での逆風を引き続き十分に相殺していくと見込んでいます。

FY2026：将来成長に向けた確かなベースライン

FY2026 通期実績

売上高	前期比	調整後営業利益	調整後営業利益率	前期比	調整後FCF
1兆107億円	+1%	1,433億円	14.2%	▲4.7pp	535億円

利益率低下の要因

- FDA関連の輸入警告および自主的な出荷止めの影響（ネット金額）：約300億円
- 米国関税による逆風
- 売上ミックスの悪化と一過性の構造改革費用
- これら要因を除けば、利益率水準は概ね安定

確かなベースラインと考える理由

- FY2026に影響した一過性要因は段階的に減少する見込み
- 戦略的取り組みの進展を示すQ4業績
- コスト規律の継続によるコスト管理改善
- 困難な事業環境下でも、見通しを上回る実績を達成

- 2026年3月期は、第3四半期に公表した見通しのレンジを上回る着地となりました。出荷止めや一過性のコスト、そして品質是正対応に伴うオペレーションの複雑さなど、プレッシャーを受ける一年でした。その中で、結果として見通しを上回る業績を達成しています。これは付随的な話ではありません。2026年3月期が、2027年3月期に目指す回復、さらに2027年3月期から2029年3月期にかけて見込んでいる業績に向けた、確かなベースラインとなっている理由そのものです。今年の業績に影響を与えた一過性の要因は、2027年3月期を通して減少する見込みです。第4四半期の業績からは、戦略的取り組みが軌道に乗り始めている兆しが確認できます。また、コスト規律への継続的な注力が、コスト管理の改善に寄与しています。これが、私たちが積み上げている土台です。

品質カルチャーの強化：是正対応は着実に進展



是正対応

- 査察対象となった8拠点すべてで、是正対応が体系的に進捗
- 品質マネジメントシステムを持続性の高いものへと強化
- 品質カルチャーが日常の業務プロセスに定着
- 一過性の是正関連費用はFY2026において、大部分が計上済み



FDAとのエンゲージメント

- 建設的な対話を継続し、持続可能でコンプライアンスに準拠したあるべき姿の実現に注力
- 対応の進捗に応じて、規制当局および投資家に対する十分な透明性を確保



供給回復

- 影響を受けた製品の一部は市場への再投入が完了
- 顧客向けの供給見通しの可視性が改善
- 残る製品についても再開に向け計画どおり進捗

- 次に、品質に関するアップデートについてご説明します。
- 全世界にわたり、是正対応は着実に進んでいます。特定された指摘事項に対して、体系的に対応を進めており、当社の品質マネジメントシステムは、持続性を重視した形で強化されています。また、品質カルチャーは継続的に向上し、日常の業務の中に浸透・定着しつつあります。
- FDAとは、持続可能でコンプライアンスに準拠したあるべき姿の実現に明確に焦点を当て、建設的かつ透明性のある対話を継続しています。製品面では、これまで出荷が遅れていた製品の出荷再開が進んでおり、影響を受けた製品の一部はすでに市場に戻っています。一部の製品については引き続き出荷止めが続いていますが、供給状況の改善に取り組んでおり、その進展が今後のモメンタムに寄与することを期待しています。
- 私たちは、ここで立ち止まることはありません。まだ取り組むべき課題が残っていることは認識しています。患者さんや医師、規制当局がオリンパスに求める基準は高く、そしてそれは当然のことだと考えています。私たちは、その期待を上回ることに、全面的にコミットしています。また、是正対応が進む中で、規制当局の皆様、そして本日ご参加の皆様に対しても、引き続き透明性をもって情報をお伝えしていきます。

FY2027：モメンタムの加速

FY2027 業績見通し

売上高

1兆550億円～1兆760億円

為替影響調整後前期比

+1.5%～+3.5%

前期比

+4.4%～+6.5%

調整後営業利益率

15.2%～16.7%

前期比

+1.0pp～+2.5pp

年度の業績推移の予想

- 上期：緩やかな成長
出荷止めの影響が引き続き正常化に向かう中、新オペレーティングモデルによるコスト削減効果が段階的に顕在化し始めると想定
- 下期：成長が加速
出荷止めの解消や新製品の投入、オペレーティングモデルの効果積み上げに期待

利益率改善のドライバー

- FY2026に影響した一過性要因は段階的に減少する見込み
- 新オペレーティングモデルによる構造的な効率性向上
- 規律あるコスト管理
- FY2029まで、年間100bps超の利益率改善を目標

- これまでお伝えしてきたとおり、2027年3月期は、2027年3月期から2029年3月期に向けた経営戦略の初年度にあたります。現在、私たちは戦略の実行とモメンタムの加速に、重点を移しています。2027年3月期の売上高成長率は約3%を目標としており、第4四半期以降のGISのモメンタムを基盤に、ポートフォリオ全体にわたる新製品の投入によって成長を後押ししていきます。これらの新製品は、オーガニックなイノベーション戦略が成果を上げ始めていることを示す、重要な証左となります。
- 次に、利益率についてです。2027年3月期に見込む100ベースポイント超の改善は、2026年3月期に利益を圧迫していた一過性要因の段階的な減少に加え、新オペレーティングモデルの下での効率性向上、規律あるコスト管理によって実現する見通しです。構造的なコスト低減と実行力の向上により、2027年3月期以降、段階的に収益力が強化されていくと考えています。
- 2027年3月期における業績推移の予想について、私の考えをお伝えしたいと思います。上期は、中国の回復が進む過程にあることや、出荷止めの影響が引き続き正常化に向かうこと、そして新オペレーティングモデルによるコスト削減効果が立ち上がり始める段階であることから、緩やかな成長を見込んでいます。その後、こうした追い風が積み上がることで、下期には成長が加速すると想定しています。今回お示ししている通期の見通しは、このような推移を織り込んだものです。

FY2027：キャピタルアロケーションの優先順位

キャピタルアロケーションの優先事項

- **戦略的成長投資**
イノベーション、GISの基盤強化、選択的なM&Aを推進
FY2027において10品目超の新製品発売を計画
- **配当**
1株当たり30円を維持
安定的な株主還元を継続
- **自己株式取得**
FY2027において最大600億円を予定
事業への揺るぎない自信と株主価値向上へのコミットメントを反映
- **財務の柔軟性**
投資適格の格付け水準を維持し、財務の柔軟性を確保

株主還元フレームワーク

- 配当中心のモデルから、配当と自己株式取得のバランスを重視した、より柔軟な株主還元フレームワークへ移行
- FY2027～FY2029にかけて収益力の強化が進む中、資本をより機動的に株主へ還元

- キャピタルアロケーションについて、全体的なお話をします。基本的な考え方を大きく変えるわけではありませんが、イノベーション、基盤強化、選択的なM&Aといった成長投資に、より重点を移していきます。その一方で、安定的な株主還元を維持するとともに、必要な局面で迅速に行動できる財務の柔軟性も引き続き確保していきます。こうした方針に基づき、2027年3月期の年間配当は、1株当たり30円を維持する予定です。これは、安定的な株主還元を継続するという当社のコミットメントと整合しています。また、2027年3月期において、最大600億円規模の自己株式取得を実施する予定です。これは、事業への揺るぎない自信と、株主価値向上への当社のコミットメントを反映したものです。

ポートフォリオの最適化：規律ある評価と資源の再配分

全社的なフレームワーク

- すべての事業を、一貫した3つの基準に基づいて評価
 - 戦略適合性
 - 価値向上につながる成長
 - 投下資本利益率 (ROIC)
- 目標水準に達していない領域については、パフォーマンス最適化およびさらなる価値創出に向けた選択肢を検討

外科事業のレビュー

- SISにおける外科内視鏡およびその他の治療領域がレビューの対象
- 価値創出を最大化するため、あらゆる選択肢を視野に入れた戦略的レビューを開始
- あらかじめ具体的な期限や結論を定めずに検討
- 本プロセスを通じて、外科内視鏡およびその他の治療領域の顧客・従業員に対するコミットメントを継続

- それでは、四半期業績の詳細についてマイケルに引き継ぐ前に、外部開示上、SISの「外科内視鏡」、
「その他の治療領域」に含まれている外科事業についてお話しします。
- 当社のキャピタルアロケーション戦略全体の枠組みの中で、私たちはすべての事業を、戦略適合性、価値向上につながる成長、投下資本利益率という一貫した基準に基づき、継続的に評価しています。外科事業についても、これらの観点からレビューを行い、パフォーマンスの最適化とさらなる価値創出を目的として、さまざまな戦略的オプションを検討していきます。
- ここで、本件の位置づけについて、誤解のないように整理しておきたいと思います。これはオリンパス全体のポートフォリオに関するシグナルではありませんし、中核であるGISの戦略を変更するものでもなければ、呼吸器科や泌尿器科の戦略を変更するものでもありません。今後に向けて、中核を強化し、より高いリターンが見込める分野に規律をもって資本配分していくことを意味しています。
- 現時点では、この戦略レビューについて、具体的な期限や決定した事実はありません。適切なタイミングで、追加のアップデートをお伝えしていく予定です。本日お伝えできるのは、この検討を厳密かつ客観的に、スピード感をもって進めているということです。
- 最後に、2026年3月期は、オリンパスの再構築を進める中で、厳しい一年となりました。コストを吸収し、事業上の困難を受け止めながら前進してきました。結果として、修正後の見通しを上回る実績を達成しています。2027年3月期は、私たちが「何を構築しているか」を語るフェーズから、「何を生み出せるか」をお見せするフェーズへと移行する年です。第4四半期は力強いスタートとなり、今後の実行に対して確かな手応えを得ています。
- 11月に発表した中期計画の達成に向けた当社のコミットメントは揺らいでいません。明確に申し上げると、1桁台半ばの売上高成長率と20%超の営業利益率を達成するメドテック企業になるという当社の目標も、その達成までの時間軸も変わっておりません。
- 最後に、全従業員一人ひとりの尽力、献身的な取り組みに心より感謝します。それでは、ここからはマイケルに引き継ぎます。

連結業績および事業概況

2026年3月期

- ボブ、ありがとうございます。皆様、本日はご参加いただき、ありがとうございます。オリンパスのCFOとして、皆様に初めてお話しできることを大変嬉しく思います。
- 業績の説明に入る前に、まず簡単に私の経歴についてお話しします。私は25年以上にわたり、グローバルメドテックおよびヘルスケア企業でファイナンス業務に携わってきました。日本や中国でCFOを務め、事業が重要な発展の段階にある中で、ファイナンス組織の変革を主導してきました。オリンパスは、差別化された製品、強固な市場ポジション、そして顧客からの厚い信頼という、確かな基盤を持っています。私は、その基盤を持続的な財務パフォーマンスへとつなげていく取り組みに強い確信を持ち、入社を決めました。私が重視しているのは、財務規律、資本配分の厳格な管理、そして皆様が当社のストーリーに確信を持てるよう、必要な透明性を提供することです。
- それでは実績についてお話しします。まずは第4四半期から始めたいと思います。なぜなら、そこに私たちの変革が成果を生み始めている兆しが表れているからです。

2026年3月期 第4四半期実績 連結業績概況

1 売上高：出荷止めの影響の中でも、GISの北米、欧州、アジア・オセアニアが好調に推移し、前期比で9%の成長（為替影響調整後で3%）

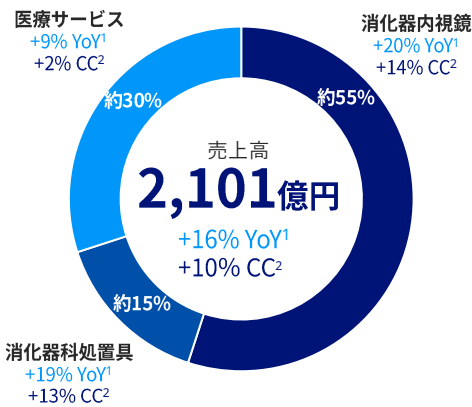
2 調整後営業利益¹：規律あるコスト管理および販管費の最適化に向けた継続的な取り組みを行った一方、米国関税の影響などにより減益

(単位：億円) ※調整後EPSを除く	FY25 4Q	FY26 4Q	前期比	為替影響調整後
売上高	2,721	1 2,953	+9%	+3%
売上原価	793	1,025	+29%	+24%
売上原価率	29.2%	34.7%	+5.6pp	+6.2pp
販管費	1,327	1,393	+5%	0%
販管费率	48.8%	47.2%	▲1.6pp	▲1.3pp
調整後営業利益 ¹	603	2 534	▲11%	▲20%
調整後営業利益率	22.2%	18.1%	▲4.1pp	▲5.0pp
当期利益 ²	415	248	▲40%	
調整後EPS	40円	36円	▲11%	

¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ² 親会社の所有者に帰属する当期利益

- 売上高は、円安も追い風となり、前年同期比で9%、為替影響調整後で3%の成長となりました。主な要因は、GISが幅広い地域で想定を上回る実績を示したことです。北米、欧州、アジア・オセアニアの各地域で二桁成長を達成し、これらの地域は当社グローバル売上の8割超を占めています。これは、ボブが述べたビジネスのモメンタムそのものであり、私たちが築いてきた基盤を裏付けるものです。
- 調整後営業利益は534億円、調整後営業利益率は18.1%、為替影響調整後では17.2%でした。継続して販管費のコントロールを強化しましたが、米国関税の影響を受けたほか、出荷止めやその他の品質問題に起因する在庫への影響により減益となりました。
- 調整後EPSは前期比11%減の36円となりました。

2026年3月期 第4四半期実績 消化器内視鏡ソリューション事業



¹ YoY = 前期比 ² CC = Constant Currency (為替影響調整後)

16

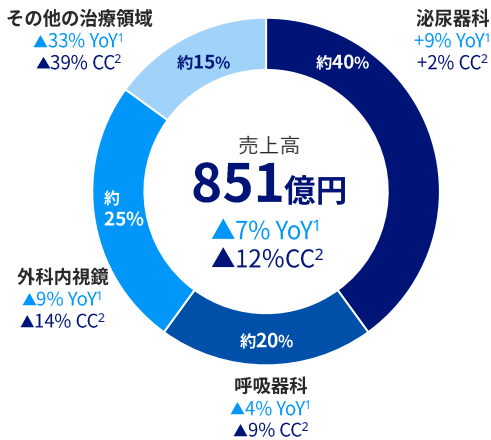
4Q実績の主な要因 (前期比)

消化器内視鏡	好調に推移した北米、欧州、アジア・オセアニアが二桁成長し、前期比で20%成長
消化器科処置具	各地域の強い実行力と新製品効果により前期比で19%成長。北米と欧州が成長を牽引
医療サービス	継続的なサービス契約の売上により、前期比で9%の安定した成長を実現。北米とアジア・オセアニアが堅調に推移。

OLYMPUS

- 続いて、第4四半期のサブセグメント別の売上高の状況についてご説明します。
- 消化器内視鏡では、北米、欧州、アジア・オセアニアが強い二桁成長となり、前期比で大幅なプラス成長となりました。北米ではEDOFスコープと内視鏡用超音波観測装置「EU-ME3」のデモの実行をはじめとする販促活動が奏功し成長しました。欧州では英国、フランス、北欧など複数の国で堅調に推移しました。アジア・オセアニアは主にオーストラリアが牽引し、好調に推移しました。
- 消化器科処置具でも、各地域の強い実行力と新製品効果により前期比でプラス成長となりました。北米と欧州が成長を牽引しました。北米では、胆管用メタリックステント「GORE VIABIL Biliary Endoprosthesis」を2026年1月に発売し、前期比で二桁成長を達成しました。
- 医療サービスでは、北米とアジア・オセアニアが牽引し、継続的なサービス契約の売上に支えられ、前期比で安定した成長を実現しました。

2026年3月期 第4四半期実績 サージカルインターベンション事業



¹ YoY = 前期比 ² CC = Constant Currency (為替影響調整後)

4Q実績の主な要因 (前期比)

泌尿器科	第4四半期で大部分の製品の出荷再開もあり、前期比で9%成長。欧州とアジア・オセアニアが成長を牽引
呼吸器科	一部製品の出荷止めが継続し、前期比で▲4%減収
外科内視鏡	北米、中国、日本などの減収により、前期比で▲9%減収
その他の治療領域	一部製品の出荷止めの影響のあったサージカルデバイスなどで、前期比で▲33%減収

17

OLYMPUS

- 次は、SISです。まず出荷止めの影響についてご説明します。SISへの影響は2027年3月期上期まで継続する見込みですが、下期には概ね解消される見通しです。
- 泌尿器科に関しては、第4四半期に、出荷止めとなっていた製品の大部分について出荷が再開され、前期比で増収となりました。泌尿器科では、出荷再開に伴う「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の販売回復に加え、肥大した前立腺や膀胱腫瘍の切除用電極の堅調な需要も寄与し、売上が拡大しました。欧州とアジア・オセアニアが成長を牽引しました。欧州では、英国やポーランドを含む複数の国で好調に推移しました。出荷止めの影響があったにもかかわらず、欧州およびアジア・オセアニアは第4四半期において、前期比で二桁成長を達成しました。
- 呼吸器科では、超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)で使われる超音波気管支鏡が堅調に推移した一方、一部製品の出荷止めが継続したため、前期比で減収となりました。通期では、超音波気管支鏡の売上高は前期比約60%増と非常に堅調であり、出荷止めの影響を一部相殺しました。
- 外科内視鏡では、欧州で力強い成長を達成した一方で、北米、中国、日本などの減収により、前期比で減収となりました。
- その他の治療領域では、出荷止めの影響のあったサージカルデバイスなどで、減収となりました。

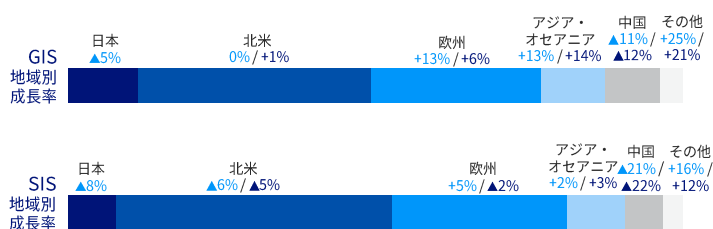
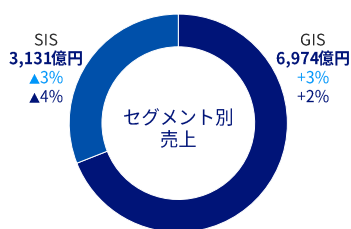
2026年3月期 通期実績ハイライト

売上高
1兆107億円
+1% / 0%

調整後営業利益率¹
14.2%
▲4.7 pp

調整後EPS
92円
▲21%

調整後FCF
535億円
▲51%



¹ 特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く。為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

- 通期実績について、簡単にご説明します。
- 2026年3月期は出荷止めや一時的なコストの影響を受けましたが、第3四半期に開示した見通しのレンジを上回る結果となりました。また、第4四半期の実績は、オペレーションの正常化が進んだ局面で、当社のビジネスがいかに力強く動き出すかを明確に示しています。そして、このモメンタムを2027年3月期へとつなげていきます。
- 売上高は1兆107億円で、円安を追い風に前年同期比1%の増収となりました。調整後営業利益は1,433億円、調整後営業利益率は14.2%でした。4.7ポイントの低下は、主としてFDA関連の輸入警告および自主的な出荷止めのネット影響約300億円によるものであり、これに加えて米国関税の逆風やセールスマックスの悪化が影響しました。これらの影響を除けば、ベースとなる利益率は概ね安定していました。調整後EPSは前期比21%減の92円でした。
- 調整後フリーキャッシュフローは前期比51%減の535億円で、税引前利益の減少に加え、運転資本の変動および開発費の資産化を含む資本的支出の増加を反映しています。2027年3月期は税引前利益が回復するにつれて、調整後フリーキャッシュフローは正常化および改善が進むと見込んでいます。
- 2026年3月期は困難の多い一年でしたが、当社は着実に基盤構築を進めてきました。2027年3月期は、そのモメンタムを実行、加速させる年です。

通期業績見通し

2027年3月期

2027年3月期 通期見通し 連結業績

- ☑ 売上高：2027年3月期は、主要地域におけるGISの力強いモメンタムが牽引し、売上率成長率「3-4-5%」の成長軌道に向けた重要なステップとなる見込み
- ☑ 調整後営業利益¹：一過性要因の段階的な減少、新オペレーティングモデルによる構造的な効率性向上、規律あるコスト管理により、調整後営業利益は100bps超の改善を見込む



¹営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値²YoY=前期比³CC=Constant Currency (為替影響調整後)

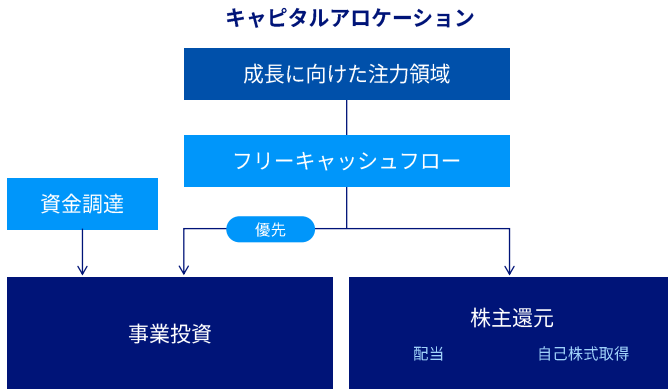
20

OLYMPUS

- 2027年3月期は、当社の3-4-5%の売上成長モデルの初年度にあたり、毎年100ベースポイント超の利益率の拡大を目標としています。
- 2027年3月期については、売上高成長率を1.5%~3.5%と見込んでいます。これは、主要地域におけるGISの力強いモメンタムによるものです。レンジの幅は、主に出荷止めの正常化の進捗と中国市場の回復ペースの2つの変動要因を織り込んでいます。今後、見通しの精度が高まるにつれてレンジは絞り込んでいく予定です。
- 主にSIS内の一部製品における出荷止めおよび輸入警告の影響は、2027年3月期まで継続する見込みです。出荷の大部分が下期に再開するという前提のもと、売上への影響を約420億円織り込んでいます。
- 2027年3月期の成長は下期に偏る見通しです。当社のキャピタルビジネスは季節性の関係で下期に売上が偏るため、通常は消耗品ビジネスでそれを相殺していますが、キャピタルビジネスに出荷止めの影響があるため、今期はキャピタルビジネスの季節性による影響がより強く表れる見込みです。出荷止めの影響が正常化し始め、新製品が市場に投入され、新しいオペレーティングモデルによるコスト削減効果が顕在化するにつれて、下期に成長が加速する見込みです。
- 製品別では、GISについては、EVIS X1の追加スコープ、中国での現地生産製品、EU-ME3や新超音波内視鏡ならびにGORE VIABILやRetentiaを含む消化器科処置具の新製品の寄与により、さらなる売上の拡大を見込んでいます。SISについては、出荷再開に向けた対応を進めつつ、まずは事業の安定化を図りながら、重点領域における主要製品を通じて段階的な回復を図ります。泌尿器科では、SOLTIVE SuperPulsed Laser System、シングルユース尿管鏡およびサクシオンアクセスシステムにより碎石治療領域の拡大を図るとともに、4Kのイメージング技術およびプラズマ技術により前立腺肥大症および膀胱がん領域での展開を進めます。呼吸器科では、細径EBUSスコープおよびEBUS穿刺針の普及を進めます。
- 利益率の面では、2027年3月期の改善は、一過性要因の段階的な減少や新オペレーティングモデルの下での構造的な効率性向上、規律あるコスト管理によって実現される見込みです。調整後営業利益率は15.2%~16.7%を見込んでいます。
- ボブが述べたように、当社では包括的なポートフォリオレビューを継続しており、各事業を戦略適合性、価値向上につながる成長、投下資本利益率（ROIC）の観点から評価しています。SIS事業に含まれる外科内視鏡及びその他の治療領域については、戦略的な選択肢を検討しています。投資配分および資本の再配分は、持続的な成長と長期的な株主価値を支えるため、より高いリターンが見込める機会に重点を置いていきます。

キャピタルアロケーション・ポリシー

グローバル・メドテックにおける持続的な価値創造を推進するために、キャピタルアロケーションを強化



私たちの資本配分の考え方

投資

長期的な価値創造に向けて成長領域へ投資
優先度の高い注力領域への資本配分を通じて持続的な成長を加速させるとともに、当社のコア・コンピテンシーと整合するインオーガニック投資を組み合わせで推進

還元

株主への柔軟な資本還元
より柔軟で資本効率の高い、配当と自己株式取得を組み合わせた株主リターンを提供しながら、DPS（1株当たり配当）は維持

キャピタルアロケーションの前提条件

財務規律の維持

通常時はBBB+格付けを維持しつつ、インオーガニック成長を含む戦略的成長を支えるため、必要に応じてレバレッジ拡大の柔軟性を確保。いずれの場合も投資適格（BBB-以上）の格付け水準を維持

- 最後に、キャピタルアロケーションについてご説明いたします。当社のキャピタルアロケーションの方針を、現在の戦略サイクルの段階を踏まえ、進化させます。
- まず、最優先事項は成長投資であることは変わりません。2027年3月期には多くの製品投入を予定しており、また、価値創造の可能性が最も高いと判断する分野では、引き続きインオーガニックな機会も模索していきます。
- 株主還元について、2026年3月期の配当は、当初のコミットメントと一致して1株当たり30円を据え置きます。今後は、配当を中心とした還元モデルから、配当と機動的な自己株式取得を組み合わせた、より柔軟な枠組みへ移行します。2027年3月期から2029年3月期にかけて収益力が高まり、バランスシートの柔軟性が向上するにつれて、固定配当だけでは実現できない、より機動的な資本の還元が可能になります。
- 自己株式取得については、規律ある方針で臨みます。株価が本源的価値を下回って推移しており、かつ成長投資に必要な資金が十分に確保されている場合に、資本を還元します。現在、当社はその条件を満たしています。そのため、最大600億円の自己株式取得を実施する予定です。これは、当社の財務基盤の強さと、事業の長期的価値に対する確信を反映した、意義ある資本の還元です。当社は、持続的な財務柔軟性の基盤として、引き続き投資適格格付けを維持する方針です。また、適切な機会が生じた場合には、戦略的なM&Aを実行できるよう、この格付けの範囲内でレバレッジ比率を柔軟に運用する準備があります。
- この枠組みにより、当社は必要な局面で機動的に意思決定・実行できる体制となります。すなわち、足元では自己株式取得を実施し、今後の環境変化に応じて成長投資やM&Aにも対応していきます。
- 2026年3月期は、大きな混乱とそれに対する規律が問われた1年であり、その両方が数字に表れています。2027年3月期は、その規律が業績として表れ始める年です。今後、四半期ごとにその進捗をお示しできることを楽しみにしています。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

OLYMPUS

Appendix

2026年3月期 連結業績概況

(単位：億円) ※EPS、調整後EPSを除く	FY25通期	FY26通期	前期比	為替影響調整後	FY25 4Q	FY26 4Q	前期比	為替影響調整後
売上高	9,973	10,107	+1%	0%	2,721	2,953	+9%	+3%
売上原価	3,136	3,566	+14%	+11%	793	1,025	+29%	+24%
売上原価率	31.4%	35.3%	+3.8pp	+3.6pp	29.2%	34.7%	+5.6pp	+6.2pp
販管費	4,957	5,071	+2%	+1%	1,327	1,393	+5%	0%
販管费率	49.7%	50.2%	+0.5pp	+0.5pp	48.8%	47.2%	▲1.6pp	▲1.3pp
持分法による投資損益	5	▲37	-	-	2	0	-	-
その他の収益および費用	▲260	▲462	-	-	▲66	▲266	-	-
営業利益	1,625	971	▲40%	▲40%	537	269	▲50%	▲59%
営業利益率	16.3%	9.6%	▲6.7pp	▲6.5pp	19.7%	9.1%	▲10.6pp	▲11.7pp
調整後営業利益 ¹	1,885	1,433	▲24%	▲24%	603	534	▲11%	▲20%
調整後営業利益率	18.9%	14.2%	▲4.7pp	▲4.6pp	22.2%	18.1%	▲4.1pp	▲5.0pp
税引前利益	1,591	940	▲41%		539	271	▲50%	
税引前利益率	16.0%	9.3%	▲6.7pp		19.8%	9.2%	▲10.6pp	
当期利益 ²	1,179	682	▲42%		415	248	▲40%	
EPS	103円	61円	▲40%		37円	22円	▲39%	
調整後EPS	117円	92円	▲21%		40円	36円	▲11%	

¹営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ²親会社の所有者に帰属する当期利益

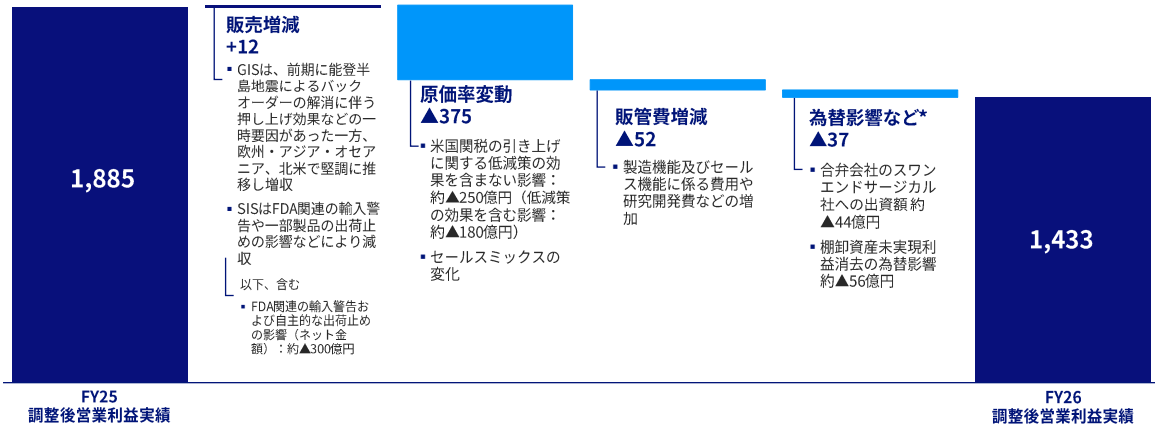
2026年3月期 サブセグメント別概況

(単位：億円)		FY25通期	FY26通期	前期比	為替影響調整後	FY25 4Q	FY26 4Q	前期比	為替影響調整後
消化器内視鏡ソリューション	売上高	6,740	6,974	+3%	+2%	1,806	2,101	+16%	+10%
	営業利益	1,714	1,364	▲20%	▲21%	548	412	▲25%	▲34%
	営業利益率	25.4%	19.6%	▲5.9pp	▲5.9pp	30.3%	19.6%	▲10.7pp	▲12.3pp
	調整後営業利益 ¹	1,896	1,644	▲13%	▲14%	584	581	0%	▲10%
	調整後営業利益率	28.1%	23.6%	▲4.6pp	▲4.6pp	32.3%	27.7%	▲4.6pp	▲6.0pp
サージカルインターベンション	売上高	3,228	3,131	▲3%	▲4%	913	851	▲7%	▲12%
	営業損益	153	▲150	-	-	80	▲44	-	-
	営業利益率	4.7%	-	-	-	8.8%	-	-	-
	調整後営業利益 ¹	236	8	▲97%	▲90%	97	15	▲85%	▲87%
	調整後営業利益率	7.3%	0.3%	▲7.0pp	▲6.6pp	10.6%	1.7%	▲8.9pp	▲9.0pp
全社消去	営業損益	▲238	▲238	-	-	▲92	▲95	-	-
連結合計	売上高	9,973	10,107	+1%	0%	2,721	2,953	+9%	+3%
	営業利益	1,625	971	▲40%	▲40%	537	269	▲50%	▲59%
	営業利益率	16.3%	9.6%	▲6.7pp	▲6.5pp	19.7%	9.1%	▲10.6pp	▲11.7pp
	調整後営業利益 ¹	1,885	1,433	▲24%	▲24%	603	534	▲11%	▲20%
	調整後営業利益率	18.9%	14.2%	▲4.7pp	▲4.6pp	22.2%	18.1%	▲4.1pp	▲5.0pp

¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値

2026年3月期 通期実績 連結調整後営業利益増減要因

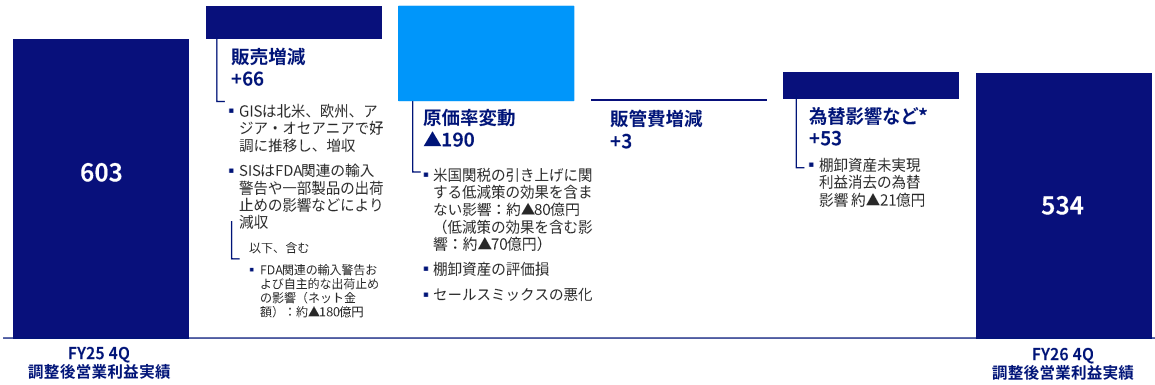
通期実績（4-3月）



（単位：億円）*「持分法による投資損益」が含まれています

2026年3月期 第4四半期実績 連結調整後営業利益増減要因

第4四半期実績（1-3月）



（単位：億円）*「持分法による投資損益」が含まれています

プロダクトパイプライン：消化器内視鏡ソリューション事業 (2026年5月12日時点)

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1システム・スコープ
- EVIS EXERA IIIシステム・スコープ
- EVIS LUCERA ELITEシステム・スコープ
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3



EVIS X1システム



内視鏡用超音波観測装置EU-ME3

消化器科処置具

- ERCP (ガイドワイヤ)
- ESD&EMR (ESDナイフ)
- サンプリング (スネア、生検鉗子)
- 止血 (止血クリップ、止血関連ソリューション)
- EUS (超音波内視鏡検査用吸引生検針)



ガイドワイヤ



ESDナイフ

FY2026発売の主な製品

消化器内視鏡

- EXIS X1 ED0F上部消化管用ビデオスコープ (米国、中国)
- EXIS X1 ED0F下部消化管用ビデオスコープ (米国)
- OLYSENSE! CAD/AI (米国、欧州)
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3 (米国、中国)

消化器科処置具

- 止血クリップ Retentia (欧州、アジア・オセアニア)
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針 SecureFlex (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)
- 大腸内視鏡先端アタッチメント EndoCuff Vision (日本、アジア・オセアニア)
- ディスボーザブル回収ネット (欧州)
- 高周波スネア (欧州)
- 胆管用メタリックステント GORE VIABIL Biliary Endoprosthesis (米国)

FY2027発売および発売予定の主な製品

消化器内視鏡

- EXIS X1 ED0F下部消化管用ビデオスコープ (中国)
- EVIS X1 スコープ (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)
- OLYSENSE CAD/AI (アジア・オセアニア)
- OLYSENSE Asset Care (欧州)
- OLYSENSE Computer-Aided Metrics (米国、欧州)
- 新超音波内視鏡 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース十二指腸内視鏡 (米国、日本)
- 超音波画像診断装置 Aplio i800 EUS (米国)

消化器科処置具

- 止血クリップ Retentia (中国)
- 胆管用メタリックステント GORE VIABIL Biliary Endoprosthesis (欧州、アジア・オセアニア)

FY2028以降発売予定の主な製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 スコープ
- 新超音波内視鏡 (米国)
- OLYSENSE Report
- OLYSENSE Insights
- シングルユース十二指腸内視鏡 (欧州、アジア・オセアニア)

消化器科処置具

- 止血関連ソリューション EndoClot (中国、アジア・オセアニア)
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針 SecureFlex (中国)
- 新止血クリップ
- 胆管用プラスチックステント

¹ OLYSENSEはオリンパス株式会社および/またはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します。
(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
(注) 本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるとは限りません

プロダクトパイプライン：サージカルインターベンション事業 (2026年5月12日時点)

現在の主力製品

泌尿器科

- レゼクト電極、ESG-410
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System



レゼクト電極、ESG-410 SOLTIVE SuperPulsed Laser System

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡
- シングルユース気管支鏡
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ディスプレイポータブル吸引生検針
- スバイレーションバルブシステム
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3



EVIS X1 気管支鏡 吸引生検針

外科内視鏡

- VISERA ELITE III



VISERA ELITE III

FY2026発売の主な製品

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡 (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- VISERA S (米国)
- OES ELITE 硬性膀胱鏡 (欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- 細径EBUSスコープ (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3 (米国、中国)
- シングルユース気管支鏡 (欧州)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国、中国)

FY2027発売および発売予定の主な製品

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡 (日本)
- 4Kカメラヘッド (米国、中国)
- OES ELITE 硬性膀胱鏡 (米国、日本)
- レーザーシステム (米国、欧州)

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 細径EBUSスコープ (米国)

外科内視鏡

- 新外科用内視鏡 (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)

FY2028以降発売予定の主な製品

泌尿器科

- レーザーシステム
- VISERA S (中国)
- OES ELITE 硬性膀胱鏡 (中国)

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡 (中国)
- 細径EBUSスコープ (中国)

外科内視鏡

- 次世代外科内視鏡システム

(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
(注) 本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるとは限りません

2026年3月期「Elevate」に係る費用

(単位：億円)	FY24 通期	FY25 通期
販管費	85	111
その他の費用	230	194
合計	315	305

(単位：億円)	FY26 1Q	FY26 2Q	FY26 3Q	FY26 4Q	FY26 通期
販管費	24	23	25	31	103
その他の費用	24	30	27	27	108
合計	48	53	52	58	211

2026年3月期 通期実績 連結調整後営業利益

☑調整後営業利益は、営業利益から「その他の収益・その他の費用」を差し引いた数値を記載

(単位：億円)	FY25 通期	FY26 通期
営業利益	1,625	971
①調整項目：その他の収益	52	113
主な収益科目	<ul style="list-style-type: none"> 中国子会社が中国・深圳市に保有する土地使用权及び建物を深圳市政府へ返還したことに伴う補償金 12 (全社・消去) 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社エビデントとのライセンス使用許諾等に関する合意に基づく対価 60 (全社・消去) 欧州連結子会社が保有する建物の売却益 12 (GIS、SIS)
②調整項目：その他の費用	▲313	▲575
主な費用科目	<ul style="list-style-type: none"> 品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 ▲194 (GIS、SIS) 社外転進支援制度の実施に伴う特別支援金等の費用 ▲29 (GIS、SIS、全社・消去) 開発資産の減損損失 ▲26 (GIS、SIS) 	<ul style="list-style-type: none"> 品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 ▲108 (GIS、SIS) 開発資産の減損損失 ▲86 (GIS、SIS) 技術関連資産等の減損損失 ▲16 (SIS) グローバルレベルで組織体制を変革し、人員数の最適化を図るための施策の実施に伴う費用 ▲269 (GIS、SIS、全社・消去)
調整後営業利益	1,885	1,433

連結財政状態計算書

1 自己株式の取得や配当金の支払などにより現預金が減少の一方、為替の影響や営業債権、棚卸資産の増加により総資産は増加

(単位：億円)	2025年3月末 ¹	2026年3月末	増減額		2025年3月末 ¹	2026年3月末	増減額
流動資産	6,796	7,063	+268	流動負債	4,254	4,369	+115
現金及び現金同等物	2,525	1,880	1 ▲645	営業債務及びその他の債務	614	806	+192
営業債権及びその他の債権	2,042	2,368	+327	社債および借入金	950	799	▲151
棚卸資産	1,871	2,071	+199	その他の流動負債など ²	2,690	2,764	+74
非流動資産	7,537	8,309	+771	非流動負債	2,562	2,882	+321
有形固定資産	2,633	2,872	+239	社債および借入金	1,341	1,597	+256
無形資産	940	1,010	+71	資本	7,517	8,120	+603
のれん	1,806	1,942	+136	自己資本比率	52.4%	52.8%	+0.4pp
資産合計	14,333	15,372	1 +1,039	負債および資本合計	14,333	15,372	+1,039

¹2025年3月期において発生したテリの販売会社の企業結合について、当連結会計年度において暫定的な金額の修正を行っています
²連結財政状態計算書の勘定科目である、その他の金融負債、未払法人所得税、引当金、その他の流動負債を含みます

連結キャッシュフロー計算書

1 FCF：税引前利益などによる増加を法人税の支払や有形固定資産の取得により一部相殺し、FCFは132億円のプラス。特殊要因を考慮した調整後FCF¹は535億円のプラス

2 財務CF：自己株式の取得による支出と配当金の支払を主要因に、876億円のマイナス

(単位：億円)	FY25 通期	FY26 通期	増減
税引前利益	1,591	940	▲651
営業キャッシュフロー（営業CF）	1,905	1,006	▲899
投資キャッシュフロー（投資CF）	▲655	▲874	▲219
フリーキャッシュフロー（FCF）	1,250	132	▲1,118
調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	1,094	535	▲559
財務キャッシュフロー（財務CF）	▲2,115	▲876	+1,239
現金および現金同等物期末残高	2,525	1,880	▲645

FY25の主な特殊要因

営業CF：科学事業の繰渡に関する法人税の還付	+290億円
営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩しによる支出	▲67億円
営業CF：Veran Medical Technologies社の撤退に関わる支出	▲27億円
営業CF：条件付対価の決済による支出（Odin Medical社等）	▲12億円
投資CF：投資有価証券の取得による支出	▲86億円
投資CF：条件付対価の決済による支出（Odin Medical社、Meditate社等）	▲48億円
投資CF：チリの販売会社の買収に伴う支出	▲39億円
投資CF：整形外科事業の繰渡に伴う収入	+68億円
投資CF：韓国企業の買収解除に伴う買収対価の戻り	+76億円

FY26の主な特殊要因

営業CF：科学事業の繰渡に関連した税金の支払（海外・日本）	▲280億円
営業CF：グローバルレベルで組織体制を変革し、人員数の最適化を図るための施策の実施に関する支出	▲55億円
投資CF：SwanEndoSurgical, Inc.に対する出資など	▲97億円
投資CF：韓国企業の買収解除に伴う買収対価の戻り	+30億円

¹ 「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」など特殊要因を調整

2027年3月期 通期見通し 連結業績

(単位：億円) ※EPS、調整後EPSを除く	FY26通期	FY27 通期見通し	前期比	為替影響調整後
売上高	10,107	10,550~10,760	+4.4%~+6.5%	+1.5%~+3.5%
売上原価	3,566	3,675~3,690	+3.1%~+3.5%	+2.7%~+3.1%
売上原価率	35.3%	34.3%~34.8%	▲1.0pp~▲0.4pp	▲0.1pp~+0.4pp
販管費	5,071	5,195~5,200	+2.4%~+2.5%	▲0.1%~0%
販管费率	50.2%	48.3%~49.2%	▲1.8pp~▲0.9pp	▲1.7pp~▲0.8pp
その他の収益および費用など	▲499	▲315	-	-
営業利益	971	1,365~1,555	+40.6%~+60.1%	+23.3%~+42.6%
営業利益率	9.6%	12.9%~14.5%	+3.3pp~+4.8pp	+2.1pp~+3.6pp
調整後営業利益 ¹	1,433	1,605~1,795	+12.0%~+25.3%	+1.4%~+14.5%
調整後営業利益率	14.2%	15.2%~16.7%	+1.0pp~+2.5pp	0pp~+1.5pp
当期利益 ²	682	955~1,090	+40.1%~+59.9%	
EPS	61円	90円~102円	+46%~+67%	
調整後EPS	92円	106円~119円	+15%~+29%	

2027年3月期配当
年間配当30円を予定

¹営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ²親会社の所有者に帰属する当期利益

2027年3月期 通期業績見通し セグメント別業績

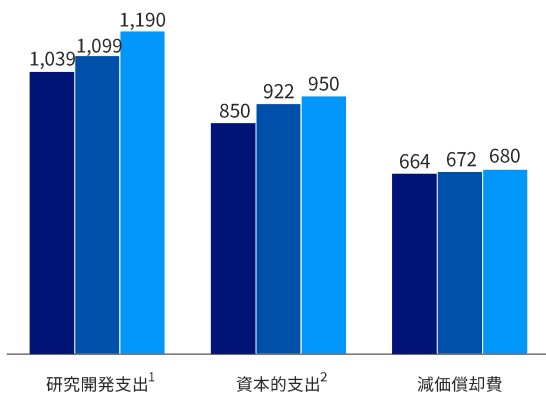
(単位：億円)		FY26 通期	FY27 通期見通し	前期比	為替影響調整後
消化器内視鏡ソリューション	売上高	6,974	7,440~7,490	+6.7%~+7.4%	+3.7%~+4.5%
	営業利益	1,364	1,735~1,800	+27.2%~+32.0%	+17.4%~+22.2%
	営業利益率	19.6%	23.3%~24.0%	+3.8pp~+4.5pp	+2.6pp~+3.3pp
	調整後営業利益 ¹	1,644	1,815~1,880	+10.4%~+14.4%	+2.2%~+6.2%
	調整後営業利益率	23.6%	24.4%~25.1%	+0.8pp~+1.5pp	▲0.3pp~+0.4pp
サージカルインターベンション	売上高	3,131	3,110~3,270	▲0.7%~+4.4%	▲3.5%~+1.5%
	営業損益	▲150	▲25~100	-	-
	営業利益率	-	-	-	-
	調整後営業利益 ¹	8	50~175	+517.4%~+2,061.1%	+196.4%~+1,715.3%
	調整後営業利益率	0.3%	1.6%~5.4%	+1.3pp~+5.1pp	+0.5pp~+4.4pp
全社消去	営業損益	▲238	▲345	-	-
連結合計	売上高	10,107	10,550~10,760	+4.4%~+6.5%	+1.5%~+3.5%
	営業利益	971	1,365~1,555	+40.6%~+60.1%	+23.3%~+42.6%
	営業利益率	9.6%	12.9%~14.5%	+3.3pp~+4.8pp	+2.1pp~+3.6pp
	調整後営業利益 ¹	1,433	1,605~1,795	+12.0%~+25.3%	+1.4%~+14.5%
	調整後営業利益率	14.2%	15.2%~16.7%	+1.0pp~+2.5pp	0pp~+1.5pp

¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値

投資実績推移および2027年3月期 通期見通し

FY26 通期実績およびFY27 通期見通し

(単位：億円) ■ FY25通期 ■ FY26通期 ■ FY27 通期見通し



(単位：億円) FY25 通期 FY26 通期 FY27 通期見通し

研究開発支出 ¹ (a)	1,039	1,099	1,190
開発費資産化 (b)	143	218	250
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	896	881	940

(単位：億円) FY25 通期 FY26 通期

償却費	79	84
2025年12月末		2026年3月末
開発資産残高	722	717

1 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
2 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY25通期：174億円、FY26通期：126億円、FY27通期見通し：130億円)

為替レート及び為替感応度

為替

(単位：円)	FY25 1Q	FY25 2Q	FY25 3Q	FY25 4Q	FY25 Total	FY26 1Q	FY26 2Q	FY26 3Q	FY26 4Q	FY26 Total	FY27 見通し
円/ドル	155.88	149.38	152.44	152.60	152.58	144.59	147.48	154.15	156.86	150.77	155
円/ユーロ	167.88	164.01	162.59	160.50	163.75	163.80	172.32	179.39	183.65	174.79	181
円/人民元	21.48	20.82	21.16	20.95	21.10	19.99	20.6	21.73	22.66	21.25	22.5

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	29	5
ユーロ（1円あたり）	17	5
人民元（1円あたり）	39	17

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY26Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
EMR	Endoscopic Mucosal Resection	内視鏡の粘膜切除術
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡の逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡の粘膜下層剥離術
EUS	Endoscopic Ultrasound	超音波内視鏡